12 月29日（火曜日）「新しい天と地」

【新改訳 2017】

黙示録　　21•1－8

「また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが‥‥‥天から下って来るのを見た。」（1、2 節）

キリスト教の終末論は、暗い滅亡だけが恐怖となって迫りくるような、暗いものではありません。かえって、まったく新しい天と地、神の王国の期待と確信に満ちており、永遠のいのちと希望の光があふれ、輝いています。その様子の一端は、次のように記されています。

「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。‥‥‥御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。‥‥‥」（同 3、4 節、22•1）。

私たちの信仰は、どこまであるでしょうか。現実を直視しつ

つも、究極の御国の理想をもってこそ力強く生きられるのです。

祈りましょう。

～祈り～

主よ。やがて、完全な神の御国が実現し、この世界はまったく新しい世界にとって代えられることを信じます。人類が、この希望に思いを１つにすることができますように。

【学びのために】

イザヤ 65•17、66•22、「ペテロ 3•13 参照。